

## 五木地域森林共同施業団地のロードマップの実施状況等について

協定事業体	7つのアクションの実施状況						
	① 森林情報の共有、活用	② 路網整備の戦略的展開	③ 原木の生産・流通コストの低減	④ 原木の安定供給による収益の確保	⑤ 主伐から造林・保育に係るトータルコストの低減	⑥ 施業技術の開発・実証	⑦ 林業事業体の育成、林業従事者の育成・確保
1 森林整備センター熊本水源林事務所		・日本製紙木材との連結について検討を行っている。					
2 住友林業 日向山林事業所			・中間土場をどこに設けるかということが難しく、その辺がボトルネックとなっている。		・リモコン式下刈り機を四国事業所で2月までに導入することになっている。 ・エリートツリーの母樹木を育成している。早期に供給できるようにしたい。 ・コウヨウザンの苗木も年間5万本ほど生産しているが、「試験的に」など需要は限定的。	・林業用ドローンを四国の事業所が窓口となり販売等も行っている。見学の希望等があれば受け付けている。 ・自社有林に植えたものは8年生で16mほどになっている。希望があれば案内したい。	・宮崎林業大学から木工団地でのインターンシップ受け入れの一環として当社の苗畑で引き受けている。
3 九州横井林業（株）			・山現場近くに中間土場ができそうです。	・入鴨線の道路の路肩がまた決壊しトラックが通行できない。			・従業員の技術の向上、安全に対する意識の向上を高め労働災害の防止に努めている。
4 王子木材緑化（株）日向営業所	・QGISの導入はしているが、活用まで至っていません。	・現在施業を実施している林地は、トラック道が開設されていますが、今後主伐・間伐を進めていくと、国有林と隣接する林地があり境界を貫通する道路のメリットを追求したい。					
5 日本製紙木材（株）八代営業所（南栄）	・QGISを利用し、森林管理、デジタル化を検討		・中間土場による輸送コスト低減（継続）	・日本製紙木材㈱と連携し有利販売（継続）	エリートツリー生産 57,000 本出荷予定	・GPS測量実施（省力化）	・人材不足（常時求人情報掲載）、林業大学及び高校への説明会実施
6 五木村		・森林経営計画を基にした作業路網の整備の検討。	・国有林、森林整備センターとの協議による路網の利用・整備の実施に伴う搬出経費の削減。（字中村の立販及び令和4年度平沢津森林整備事業）			・「令和4年度路網整備及び再造林対策区域設定調査事業」モデル実証地域（林野庁「再造林・路網整備推進地区設定事業」）に選定され、取り組んでいるところ。 ・令和3年度業務用ドローンの導入に係る補助。	・くまもと林業大学校県南校の受け入れ拠点として宿泊施設等の提供。 ・林業担い手育成補助金を活用した林業従事者確保の取組。
7 五木村森林組合	・今年の10月に森林経営計画の3期目をスタート。	・補助金を活用した素材生産に伴う作業道の開設を実施。	・燃料代等の高騰により原木の生産、輸送コストの低減は厳しい現状。	・中間土場を活用して、新産住宅へのシステム販売を計画（スギ、180㎡） ・昨年に引き続き日本製紙木材との協調出荷を計画	・昨年導入した林業用ドローンの活用を開始した。 ・住友林業によるリモコン式下刈り機械の研修参加。	・林業用ドローンによる資材運搬及び架設作業の低コスト化の実証。	・伐倒作業の安全講習会の実施。 ・林業大学校との連携を図り、林業従事者の確保に努める。 ・職場内におけるコンプライアンス研修の充実を図る。
8 木城林産（株）							・林業大学校の生徒のインターンシップを積極的に受け入れている。 ・安全ミーティングの動画を朝と昼に毎日撮影して、現場代理人が送信し、現場管理者が毎日チェックする体制をとっている。

協定事業体	7つのアクションの実施状況						
	① 森林情報の共有、活用	② 路網整備の戦略的展開	③ 原木の生産・流通コストの低減	④ 原木の安定供給による収益の確保	⑤ 主伐から造林・保育に係るトータルコストの低減	⑥ 施業技術の開発・実証	⑦ 林業事業体の育成、林業従事者の育成・確保
9 中国木材（株）あさぎり出張所							・熊本県林業大学を通して人材の確保に努めている。 地元高校の就業説明会に積極的に参加し企業アピールをする。
10 熊本南部森林管理署	・関係機関との災害時における情報交換	・災害復旧を優先して実施 ・協定者間における路網連結を継続して画策	・システム協定により山元での材の仕分けを簡素化	・市況の影響を受けにくい安定供給システムによる販売の実施	・生産と造林を組み合わせた一括発注の実施	・低コスト実証団地における実験の継続	・くまもと林業大学校県南校への講師派遣や緑の雇用研修などの研修フィールドの提供

五木地域森林共同施業団地のロードマップの実施状況等

ロードマップに関わらず、施業団地内で実施したことや、今後実施したいこと

1 森林整備センター熊本水源林事務所	・伐採・造林の一貫作業システムによる更新伐(育成複層林)を実施中。(R4 伐採面積 13.59ha、立木材積 9,511m <sup>3</sup> )
2 住友林業 日向山林事業所	
3 九州横井林業(株)	
4 王子木材緑化(株)日向営業所	・ロードマップ③～⑦について：施業は請負で実施しており、「主伐再造林」にて更新を図る事を目標としています。収穫と造林保育は異なる作業班である事が多く、伐採量(面積)から造林保育の事業量が決まるため、伐採量を調整しつつ造林保育事業を進めてきており(作業班確保が重要なポイントとなっています。)、③～⑦も重要な命題ではありますが、具体策には着手できていません。
5 日本製紙木材(株)八代営業所(南栄)	・隣接団地との路網連結を検討し、循環作業道として利用したい。
6 五木村	・【R4 年度から】「五木村モデル林森林整備事業」(五木村単独事業)において、モデル林設定フィールド内での森林教育、林業体験・研修及び育成、散策等観光としての活用、複層林や長伐期林分設定等総合的な活用を目指した整備を進めている。 ・【R4 年度から】森林環境譲与税を活用し「五木村公益的森林機能整備事業」による山地災害危険区域に接する集落や施設等の保護のため、林分の基盤の強化を図る。
7 五木村森林組合	・村内の小学生、中学生、高校生を対象に森林教室を実施。 ・造林事業において、裸苗からコンテナ苗への移行を検討。
8 木城林産(株)	
9 中国木材(株)あさぎり出張所	・令和2年の豪雨災害による災害箇所の計画はあるが未着手。
10 熊本南部森林管理署	・保育間伐(活用型)を約25ha、保育間伐(存置型)を約5ha実施 ・コスト低減に向け、生産から植付までを一貫して行う誘導伐作業を計画 ・様々な活用が期待される大型ドローンについて、現地検討会などを画策

五木地域森林共同施業団地のロードマップの実施状況等

令和2年7月豪雨で被災した路網の復旧状況	
1 森林整備センター熊本水源林事務所	・基幹作業道折立線について被害により休止中。
2 住友林業 日向山林事業所	・九電の鉄塔の工事に伴い、九州電力により仮復旧することとなっている。 ・当社の作業道と国有林の上岩林道を連結したところが活かされている。そこを通過して社有林に入っている。九電は4トン車が通れるようにしたいと言っている。 ・RV車なら通れる状況となっているが、山全体を巡視できる状況にはなっていない。
3 九州横井林業（株）	・入鴨線が令和2年7月豪雨災害による路肩決壊したところが台風14号で再び路肩が決壊しました。今のところ復旧のめどはたっていません。
4 王子木材緑化（株）日向営業所	・相良村山口の集落内の村道で、2箇所路肩が崩壊し、現在復旧工事中ですが、運材車等の通行は可能。
5 日本製紙木材（株）八代営業所（南栄）	・一部復旧出来ていない所もあるが、概ね復旧し山林へのアクセスは可能
6 五木村	・林道については現時点で25路線中8路線が復旧していないが、令和6年度までに順次復旧を進めていく。 ・作業道については40路線中13路線が通行不能、1線が工事中。森林整備計画に係る路線を優先的に実施していく方針。
7 五木村森林組合	・現在、県道の復旧をしている状態。協定地内の林道、作業道においては全体確認ができていない。
8 木城林産（株）	・山江村が宇那川林道の復旧工事に着手予定。 ・林道工事の為、12月～2月の間、材の搬出ができなくなり、一度現場を撤退することになる。
9 中国木材（株）あさぎり出張所	・令和2年の豪雨災害による災害箇所の計画はあるが未着手
10 熊本南部森林管理署	・上岩林道、宇那川林道の災害復旧工事は入札不調が続き復旧が進んでいない なお、上岩林道は、500kv 電線張替工事に伴い、復旧工事は一時見合わせて九州電力により仮復旧することで調整、宇那川林道については、手前の民有地において山江村施工の林道工事が開始され、現在、大型車通行不可となっているため発注を中断している